

写真1　千鳥ヶ淵

近隣史跡の紹介

千鳥ヶ淵（写真1）は、皇居の北西側に位置する内堀の一部をいいます。周辺には、ソメイヨシノやオオシマザクラなど約400本の桜が植えられ、開花時期には、水面を覆い尽くすほどに一面に咲き誇ります。

明治31年、当時の英国公使であったアーネスト・サトウ氏の指示で、千鳥ヶ淵に隣接していた英国公使館前の空き地に、桜が植えられたことがきっかけとなり、少しずつその周辺から数が増えていったと言われています（写真2）。

また、千鳥ヶ淵緑道内には区営ボート場があり、ボートに乗れば、水面から桜を楽しむこともできます。観桜期に開催される「千代田のさくらまつり」期間中は、夜間ライトアップで夜桜を演出するなど、毎年全国から100万人以上の観光客が訪れ盛大に賑わいます。

参考文献

千代田区（平成24年３月）『史跡と観光』

千代田区教育委員会（平成９年３月）『サトウ公使植桜の地』





写真2　サトウ公使植桜の地